

平成 30 年度 第 2 回 福岡市総合図書館運営審議会 議事録

- 1 日 時：平成 31 年 1 月 22 日（火）15：00～17：10
- 2 場 所：福岡市総合図書館 3 階 第 2 会議室
- 3 出席者：委 員）高橋昇，萩尾憲子，阿久根健一郎，渡邊由紀子，国広奈穂子，  
上村篤子，香川純子，脇川郁也，青沼美撫子，桐研次郎  
（計 10 名）  
職 員）飯田館長，中川事業管理部長，若山運営課長，宮川図書サービス課長，  
三浦文学・文書課長，八尋映像資料課長 他

4 議事録

1. 開 会

会議の非公開決定

\* 運営審議会は通常公開審議だが、「福岡市総合図書館新ビジョン事業計画の策定」については、教育委員会内部など、調整中の案件であり、事業計画の内容について、教育委員会会議においても非公開とされる予定であり、本運営審議会は非公開とする。

館長挨拶

2. 議 事

福岡市総合図書館新ビジョン後期計画策定

福岡市総合図書館新ビジョン事業計画及び成果指標（2019 年度～2023 年度）

事務局	<後期計画の概要>について説明
委 員	図書館の利用について、成果指標の 2023 年度を下方修正するのは、新聞記事で貸出冊数が政令指定都市中福岡市が最下位だったことを踏まえてのことか。
事務局	調査したところ人口千人あたりの貸出冊数，利用者数は多くない。 図書館利用者の減少について，個人貸出冊数は 4 年前に比べて 21 万冊減っている。貸出利用者数も同様に減少している。福岡県全体においても同様の傾向であり個人貸出冊数については，24,448 千冊から 23,705 千冊に 74 万冊減少している。その現状を踏まえて今後，利用を増やす努力をしていくが 2017 年度実績値からの減少値は設定できない。しかし 2013 年度に設定した当初の目標値は，達成する見込みはないと判断し下方修正している。
委 員	団体貸出制度の拡充について，団体貸出サービスを実施している高齢者施設等はどうのような施設か。
事務局	平成 29 年度の登録施設は，病院は 4 施設，高齢者施設はデイサービスセンターや有料老人ホームなど，20 施設である。
委 員	目標数値の新規登録者数について，市外からの転入者に，登録の案内はしているのか。
事務局	図書館のみの案内はしていないが福岡市の施設案内の冊子を配布している。
委 員	新規に市民になった人に登録してもらえれば良いのではないか。
事務局	検討させていただく。
委 員	団体貸出制度や転入者に図書館を利用してもらうのも広報活動が大事である。
事務局	<誰もが楽しめる魅力ある図書館>について説明

委員	都心部など交通の便の良い地域に貸出・返却拠点を新設検討, 図書館分館ごとの市民ニーズ等を考慮しながら, 休館日・開館時間の見直し検討が必要とあるが, 市政アンケートで「本の貸出・拠点が自宅や勤務地などの近くにあると今以上に図書館を利用する」との回答が 36.8%もあるのに, この点に言及されていない。目標値を掲げてこのアンケート結果を反映させないのはいかがか。
事務局	後期の事業計画で交通の便の良い公共施設等に新たな図書館の貸出・返却拠点の設置を検討するに含んでいる。現在, 福岡市の図書館は 11 館しかなく都心部から離れているところの図書館は少ないのでそこに設置するのも案だが, 交通の便の良い多くの人が集まる箇所への設置も必要ではないか。開館時間について, 東図書館は交通の便が良く 9 時から 20 時まで開館している。交通の便の悪いところは行きづらい。一律に遅くまで開館する必要があるか分館ごとに市民ニーズや立地条件を考慮し検討していく。
委員	開館時間を延長するより, 費用対効果を考え身近なところに貸出・返却拠点を設ける選択をしたほうが現実的ではないか。コンビニエンスストアや公民館を利用し, 図書館に遠くニーズが見込める箇所を選んで何らかの方策がとれないか。
事務局	貸出拠点については, 本市では都心部近辺に分館がなく, 天神や博多駅地区に勤務する人は利用しづらいと思われるため, そのニーズに答えるのが喫緊の課題だと考えている。委員指摘のコンビニエンスストアの活用については, 既に福岡市でも証明書発行など行政サービスを委託している分野もあるが, 店員の手を通さない機械によるものである。コンビニエンスストアの活用については, 手数料や物流などの費用もさることながら, 予約本を置くスペースや個人情報の問題があり, 超えなければいけないハードルは大きい。公民館についても過去検討した経緯はあるが, やはり人的な課題がある。まずは優先順位の高い課題として都心部, 交通の便の良い地域への貸出・返却拠点の設置を掲げている。
委員	それではアンケートの結果が課題に入っていない。表現の問題であり誤解を生む。
事務局	アンケートの結果を受けて, 勤務先に近い身近な地域を想定して取り組むこととしたいが, 表現は考えていく。
委員	団体貸出について, 以前, 文庫活動を始める際に団体貸出サービスを紹介されたが, 本棚の管理や自分で選本に行く必要があるのが負担で利用には至らなかった。現在は自分で選本かセット本かの選択も可能と聞いたがどうなっているのか。
事務局	文庫活動の場合, おおむね 4 ヶ月に一度の周期で選本に来ていただいている。セット本は留守家庭子ども会に対しての支援である。
委員	利用者に負担がないような運営に取り組んでもらいたい。
委員	拠点については, 返却拠点だけでなく貸出拠点も併せて作っていただきたい。
事務局	<さまざまな情報を求める市民に応える公民館>について説明
委員	行政支援に触れられていないが, 前期計画策定時のイメージであった議会図書室と単なる連携だけでなく議会における政策立案や行政の活動支援までは至っていない。また, 課題解決型支援の充実について, 2018 年度で 6 件, 2023 年度で 12 件では

	<p>少ないので頑張ってほしい。図書館において起業支援を幅広く行い、福岡市の職員や経済界にも役に立つようになってほしい。図書館職員がすべてやるのではなくできる専門家を紹介し利用者とマッチングさせる。大阪府立図書館が行っていることを活発にやってほしい。</p>
事務局	<p>議会図書室については、市議会議員の利用はあるが市職員の利用増はなかなか難しい面がある。課題解決型支援については、講演会等の件数として掲げているが、特に医療支援に力を入れている。平成27年度から九州がんセンターとの連携で講演会を開催するとともに、例えばすい臓がんをテーマの講演では関連する図書のリストを配布するなどの取り組みを行っており、軌道に乗ってきたので分館にも動きが広がってきたところである。また、市の関連施策の取り組みとして、パンフレットを集めて展示しており、今年度は、市全体で進めている一人一花運動にちなんで花をテーマに展示を行い、併せて緑のまちづくりに関する市政資料を配布したところ、大きな反響があり、手ごたえを感じている。今後とも市当局と協力しながら施策に関連した展示を行っていきたい。</p>
委員	<p>レファレンスサービスの充実について、前半部分はレファレンスサービスの受付手段を記述しているが、後半部分のホームページの複写サービス活用との関係が分かりづらい。積極的に発信するサービスであるパスファインダーと、受け身のサービスとの2本立てでレファレンスサービスを充実させるということか。</p>
事務局	<p>ホームページの複写サービスについては、前期計画で挙げていた、市や国のインターネット情報を収集し複写の形に整理して渡すサービスの開始に関する記述である。既に完了しているので、項目としては落とし、事業としては継続していくという意味だが、分かりづらいので表現を考えたい。パスファインダーについては、現在も作成しているレファレンスガイドがホームページに公開できる形になっておらず、「レファレンスだより」のみホームページで紹介しているため、今後、整理して公開したい。</p>
委員	<p>資料収集について、日本全体で公共図書館の所蔵冊数が3億冊を超えており人口一人あたり約3冊でユネスコの目標数値を日本全体では達成しているが、福岡市では150万人の人口に対し450万冊しかない。資料収集予算は増えたがまだ足りていないので財政当局に働きかけてほしい。</p>
事務局	<p>&lt;子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館&gt; &lt;総合図書館の特色を生かした図書館&gt;</p>
委員	<p>小・中校生を対象とした図書館見学は、何年生を対象としたシステムをとっているのか。</p>
事務局	<p>公共図書館の見学としての単元があるわけではないが、各学校で企画している。</p>
委員	<p>図書館を身近なものとして考えてくれるのが早道だが、まず利用しやすい図書館であってほしい。これまでの審議会でも何度か意見が出た、公民館を貸出・返却拠点にする案はなかなか難しい。団体貸出先への支援をより身近なものにすれば利用者も増えるのではないか。</p>
事務局	<p>図書館見学のほかに、調べもの学習について学校図書館支援センターの職員が対応</p>

	<p>する「図書館学習」も行っている。しかしながら、遠方の学校がバスを仕立てて授業で図書館まで来るのはなかなか難しいと思われる。また、団体貸出については、昨年度は物流のキャパシティが上限に達していたため、積極的に広報できない状況であったが、現時点で各団体の活動内容を詳細には把握できていないので、まずは、ニーズの調査から取り組んでいく。</p>
委員	<p>子どもへの読書普及について、中高生向けのイベントとは具体的にどのようなものか。また、中学校に対して学校図書館活用の啓発をどのように推進するのか。</p>
事務局	<p>ヤングアダルト層へのイベントの取り組みは始まったばかりだが、今年度は読書相談員のグループが中心となって「TRPG」のイベントを2回行い、併せて行ったブックトークも盛況であった。また、12月には毎年東京で決勝大会が行われる全国高校ビブリオバトルの第一回福岡県大会を開催し、県内から15校の参加があった。また、資料収集経費の増加分でヤングアダルト向けの図書を購入し、新着コーナーを設置したところ盛んに貸出されている。今後は、学習室に行く中高生を図書コーナーへ呼び込んでいきたい。中学校の学校図書館については、教育センターで行われた図書館授業研究会の場で支援図書の紹介を行ったり学校図書館担当連絡会で取り組みの紹介を行った。</p>
委員	<p>地域の読み聞かせボランティア等の育成講座の推進について、現在の講座のままなのか新たな取り組みを行うのか。</p>
事務局	<p>ボランティア講座の修了者を地域の読書活動につないでいくための方策を検討している。また、本の修理講座を地域で実施した事例もあり、地域ニーズがあればそういった方面での支援も充実していく。</p>
委員	<p>おはなしの会は重要な役割を果たしているのだから、きちんと評価してほしい。小さなうちから本に親しむことが来館者の増加につながるのではないかと。</p>
委員	<p>図書館でのおはなし会は、ボランティアが行っているのか。過去の実施状況について分析しフィードバックしているのか。</p>
事務局	<p>おはなし会は、週に2回行っており土曜日はこども図書館の職員、日曜日のおはなしの会が実施している。参加者数については、天候等に左右されるのか、開催回によりバラツキがある。今年度は毎月最終土曜日をとくべつおはなし会として、各回工夫を凝らして行っている。</p>
委員	<p>文学館についてインターネットによる福岡ゆかりの文学情報提供システムを構築とあるが来年度検討して2020年度から構築に入ることかまた、具体的な内容を知りたい。</p>
事務局	<p>文学情報については、来年度、システムを構築し情報提供まで行っていく。また、古文書や郷土資料など文書資料については、文学情報提供システムを拡張して併せて情報提供できるかを来年度検討し、再来年以降の情報提供を計画している。文学の情報提供は、福岡ゆかりの作家や作品の紹介、作家のゆかりの場所や作品の中に描かれた場所などを画像や地図を用いながら情報提供したい。</p>
委員	<p>図書館で所蔵する映画ポスター等の資料を活用した企画展示の実施について、天神や地行浜の商業施設のオープンスペースで展示したらどうか。</p>

事務局	図書館1階のショーケースでシネラで上映している映画にあわせて展示を行い、シネラの観客増を目的とするのが現在の展示計画。今後は幅広い企画を検討している。
事務局 委員	<p>&lt;効率的で効果的な図書館運営&gt;</p> <p>SNSを活用した情報発信について、ホームページの閲覧者が減少しているのは何故か。Facebookを見ているが情報が少なく図書館に行く気になれない。</p>
事務局	<p>ホームページの改修はしたが閲覧数が減少しているのはまだ見にくい部分があるのではないか。</p> <p>Facebookの更新はできておらず情報が古いので今後、やり方を検討していく。</p> <p>委員からの意見は、再度検討し会長に報告する。今後、後期事業計画は、教育委員会会議、市議会に報告し最終案を3月予定の運営審議会で報告する。</p>

### 3. 閉 会

事業管理部長挨拶／事務連絡